

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		国際交流事業				
	担当課・係名		総務課 総務係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	06 みんなで支え合うチカラ	
		款	02 総務費		中分類	03 多様な主体との交流と連携	
項		01 総務管理費	小分類		01 多様な主体との交流と連携		
目	07 企画費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		7	7	7	7	6
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	7	7	7	7	6
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか） 町民、国内外の日本人・外国人						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか） 異文化人との交流を行い、日本の文化を再認識するとともに外国の文化を学び国際人としての育成を図る。						
⑤	事業概要 負担金の経費計上						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について 国際交流事業について、総務課総務係の業務となっても、宮城県国際化協会の負担金計上のみになってしまっている。国際交流活動を推進するためには、所管の変更も検討が必要と思われる。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等） 特になし						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	設定困難 単位：—	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	設定困難 単位：—	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	3
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 点数 9	民間や他の機関で実施可能
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	3
イ 目的を達成するために有効な事業である	3
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	3
評価の説明 点数 9	民間や他の機関で実施可能
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	3
評価の説明 点数 9	民間や他の機関で実施可能
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	3
評価の説明 点数 3	民間や他の機関で実施可能

⑪	課長総括評価	国際交流は様々な分野での交流事業となり、具体的な交流事業については、関係する課が担当となり推進していく。
	合計点 30	
	今後の方向性	改善のうえ継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		親善友好都市交流事業				
	担当課・係名		総務課 総務係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	06 みんなで支え合うチカラ	
		款	02 総務費		中分類	03 多様な主体との交流と連携	
		項	01 総務管理費		小分類	01 多様な主体との交流と連携	
目		10 地域活性化対策費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		0	0	165	165	380
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	0	0	165	165	380
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町民及び牛久市民							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
親善友好都市である茨城県牛久市との交流を通じ、交流人口の増大を図る。							
⑤	事業概要						
毎年実施してきた茨城県牛久市との交流（牛久市へのお祭り参加）を、平成22年度から隔年実施とすることとした。							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
牛久市への参加者が固定されてきている状況であったが、平成28年度から参加地区を指定したため、多くの町民が牛久市のかっぱ祭りへ参加できるようになった。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
特になし							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	設定困難	単位：—	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	設定困難	単位：—	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	3
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 点数 9	姉妹都市を締結している為、必要な事業である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	3
イ 目的を達成するために有効な事業である	3
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	3
評価の説明 点数 9	平成28年度から牛久市への参加者を地区単位としたため、多くの町民が牛久市と交流する機会が増え有効的である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 10	効率的である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	3
評価の説明 点数 3	民間や他の団体でも可能であるが、姉妹都市なので町で実施するのが適当である。

⑪	課長総括評価 合計点 31	牛久市との交流なので引き続き実施。また、牛久市以外の市町村との交流についても検討する。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		ふるさと納税事業				
	担当課・係名		総務課 総務係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	06 みんなで支え合うチカラ	
		款	02 総務費		中分類	03 多様な主体との交流と連携	
項		01 総務管理費	小分類		01 多様な主体との交流と連携		
	目	09 諸費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		5,880	5,774	7,876	7,604	8,180
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	5,880	5,774	7,876	7,604	8,180
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	ふるさと納税者						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
	寄附金については下記の5つの施策に活用する。 ①ふるさとの未来を担う子供の育成、教育を支援する事業 ②ふるさとの自然、環境の保全に関する事業 ③ふるさとの福祉と健康づくりを支援する事業 ④ふるさとの安全・安心な暮らしを支援する事業 ⑤使途を指定しない（町に一任）						
⑤	事業概要						
	5,000円以上の寄附者に対し、返礼品として色麻町をPRできる特産品等を送付する。						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	平成28年11月からインターネットサイトを利用したふるさと納税サービスを開始し、平成28年度は15,960千円、平成29年度では10,130千円、平成30年度では17,760千円の寄附実績だった。 近年ふるさと納税の返礼品競争が過熱しており、総務省から返礼品の割合を3割以内にするよう通知があり、当町でも平成29年11月から返礼割合の見直しを図った。 今後は、返礼品及び取扱事業者の増加、使途を明確にした寄附の募集等で寄附額の増加を見込む。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	色麻町ふるさと納税寄附金取扱要綱						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	寄附件数	単位：件	実績値	924	688	1,063	
			目標値	0	0	0	
定義							
B	単位：		実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	寄附金額	単位：千円	実績値	15,960	13,130	17,760	
			目標値	0	0	0	
定義							
B	単位：		実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 点数 12	平成28年11月から業務委託でインターネットサイトを通じたふるさと納税を開始し、寄附額の増額を図った。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 13	寄附額については基金に積み立て、各事業へ充当しており、財源確保の面においては有効な事業である。 また、色麻町をPRできる特産品（地元産）を返礼品として扱っており、産業振興の面においても活性化が期待できる。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 10	今後は、充当先事業をより詳細にした寄附を募る等の方法が必要である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	インターネットサイトを通じたふるさと納税の開始により、寄附額や寄附件数は急増した。今後も、返礼品や取扱業者の増加を図る必要がある。

⑪	課長総括評価 合計点 39	平成28年11月からインターネットサイトを通じたふるさと納税を開始し、平成30年度は前年度より寄附額が増加した。今後も、インターネットサイトを活用し、周知活動に努める。 また、近年国による流動的な対応を求められる通知が発出されるため、国の動向を見ながら事業者と連携を図り、適正な対応を行い、ふるさと納税制度を持続していく。
	今後の方向性	改善の上継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		かっぱのふるさと祭り開催事業				
	担当課・係名		企画情報課 企画調整係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	06 みんなで支え合うチカラ	
		款	02 総務費		中分類	03 多様な主体との交流と連携	
		項	01 総務管理費		小分類	01 多様な主体との交流と連携	
目		10 地域活性化対策費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		3,300	3,300	3,300	3,300	2,700
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	300	300	300	300	0
		一般財源	3,000	3,000	3,000	3,000	2,700
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	まつりを運営する町民、参加する町民、町外からの観光客						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	「かっぱのふるさと色麻町」として町内外にPRし、交流人口の拡大により地域経済の活性化を図る。						
⑤	事業概要						
	かっぱのふるさと祭り実行員会による魅力あるイベントの開催を支援し、多くの町民・観光客の参加を目指しながら、新たな「町おこし」に取り組む。						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	近年、地域文化・伝統に対する意識低下、少子高齢社会や地域住民の連帯感希薄化、コミュニティの崩壊が社会問題化している中において、イベントの果たす役割は非常に大きいと考えられる。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	かっぱのふるさと祭り 単位：回	実績値	1	1	1	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	B	かっぱのふるさと祭り実行委員会等 単位：回	実績値	6	1	1	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)					
		指標名			H28	H29	H30
A		抽選券配布枚数 単位：枚	実績値	1,200	1,342	1,200	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		入込数 単位：人	実績値	3,500	4,000	3,000	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 点数 10	祭りの実施により多くの集客が図られることで、観光事業の推進及び地域経済の活性化に結びつく。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	3
イ 目的を達成するために有効な事業である	3
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 10	地域住民の融和とコミュニティの形成による地域活性化が図られるだけでなく、町独自の特徴を活かした魅力的な祭りを企画し、広く情報を発信することで観光客の誘致に努め、交流人口の増加により地域経済の活性化が図られる。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 10	経費の大部分がイベント実施に伴うものであり、事業費縮小による来場数の維持は困難といえる。 また、年々協賛金などの収入も減少している。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	本事業は、町の観光戦略の取組みの核となる事業の一つであり、今後とも継続して推進していく必要があるが、商工会事業との調整も検討していく必要がある。

⑪	課長総括評価 合計点 34	天候等に影響されるが、祭り入込数は増加の傾向にある。「若い世代が楽しめるお祭り」という観点から、「人気お笑い芸人」を招致し増加している。その他、ケータリングカー等についても若い世代の集客の要因となっている。 当面、現状のまま継続する。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	